



主張

これからの社会を生き抜く子供たちのために

深瀬 重雄

昨年より、世界中に不安と混乱をもたらした新型コロナウイルスの大流行は、日本国内にも社会生活のあらゆる場面に深刻な影響を及ぼしています。全国の学校現場では、これまでに経験したことの無い長期に及ぶ臨時休業措置がとられ、現在も様々な制限の中、各学校長によるリーダーシップの下、全教職員が一丸となって子供たちの学びの保障に向け取り組んでいることと拝察いたします。

臨時休業時の対応の一つとしてICT機器を使った学習への取組等により、GIGAスクール構想は、一気に加速化しました。文部科学省が打ち出したGIGAスクール構想は、小中学校の児童生徒に一人一台の情報端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、「多様な子供たちを誰一人取り残すことのない公正に個別最適化された学びや創造性を育む学びにも寄与するものであり、特別な支援が必要な子供たちの可能性も大きく広げるもの」としています。

私が所属する奈良県においては、県教育委員会と市町村教育委員会が協調した取組を進め、同一端末の共同購入、県域統合型校務支援システムの導入、全教員、児童生徒に個別のアカウントの付与が行われ、それが、児童生徒、教員ともに県内での転校、異動による



順応ロスの解消にもつながっています。

本校においても、一人一台情報端末配付と校内ネットワークが整備され、昨年度の臨時休業措置下では、各教科担当教員が、教科書の内容を解説する動画を作成し、生徒は、オンライン上で動画を見ただうえで課題に取り組みました。ただそれは、一方通行のものであり、同時双方型オンライン授業の形態には至りませんでした。今年度に入り、本校生徒複数名が、時を同じく新型コロナウイルス感染症の濃厚接触者等になり、自宅待機中の生徒たちにも、学校での授業を同時双方型オンライン形式で発信しました。教室の教員・生徒と自宅にいる生徒がお互いの存在を確認しながら、離れていてもお互いを大切にしてみんなで心をつなぐ中、学びを提供できたことを嬉しく思うと同時に、GIGAスクール構想の意義を実感しました。

GIGAスクール構想でのねらいは、多様な子供たちを誰一人取り残すことのない、個々の児童生徒の状態に適した学びの提供にあります。子供たちの対人関係調整能力が年々低下していると言われる中、タブレットの画面に集中する時間が増えたと、仲間の声や発言内容、発表しているときの表情等に気を配り、相手の気持ちを読み取ろうとする力がうまく育つかどうか不安にはなりますが、オンラインや情報端末を使った学習が多様な学びを保障する有効なツールの一つであることに違いはありません。

私たち教員は、これからの社会を生き抜く子供たちのために、GIGAスクール構想の目的を念頭に置きながら、生徒とともに情報端末を学びのマストアイテムとして活用し、教育活動がさらに充実したものになるように努めなければならぬと考えます。

(全日中副会長・奈良県生駒市立鹿ノ台中学校長)